

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

石川県小松市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

小松市SDGs未来都市計画

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

小松市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

日本の真ん中、アジア圏とも近く、空港や新幹線が立地する際立った特長と、地方が織り成す日本の良き自然や文化、人間性を大いに発揮して、地方における「国際都市」を創り上げ、地方創生にも資する持続可能な成長モデルを築いていく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	酒米作付面積【2.3】	2019年 10 ha	2020年 13 ha	2030年 25 ha	20%
2	女性全体の就業率【5.C】	2015年 53.8 %	2020年 — %以上	2030年 65 %以上	—
3	若者、女性、シニアの就業率【8.3】 (20~34歳)	2015年 96.0 %	2020年 — %	2030年 100 %	—
4	若者、女性、シニアの就業率【8.3】 (20~64歳)	2015年 78.3 %	2020年 — %	2030年 85 %	—
5	若者、女性、シニアの就業率【8.3】 (65歳以上)	2015年 26.3 %	2020年 — %	2030年 40 %	—
6	一人当たりの製造品出荷額 【9.2, 9.3】	2016年 3,598 万円/人	2019年 3,634 万円/人	2030年 4,500 万円/人	4%
7	いきいきシニア率【3.4】	2019年1月 68.6 %	2020年 70.5 %以上	2030年 75 %以上	30%
8	はつらつ市民数【4.7】	2019年6月 492 人	2020年 1,314 人	2030年 12,000 人	7%
9	多文化共生リーダー数【10.2】	2019年4月 282 会員	2020年 254 会員	2030年 420 会員	-20%
10	「幸せへの道しるべ」総合得点 【16.6】	2016年 393.1 点(満点600点)	2020年 397.7 点(満点中8割)	2030年 480 点(満点中8割)	5%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
11	木場潟COD値【6.6】	2017年 8.6 mg/ℓ	2019年 7.7 mg/ℓ以下	2030年 3.0 mg/ℓ以下	16%
12	リサイクル率【12.5】	2017年 21.5 %	2020年 23.1 %	2030年 35 %	12%
13	海浜エリア植林数【14.5】	2019年 0 本	2020年 8,268 本	2030年 10,000 本	83%
14	生態系回復数【15.1】	2019年 0 種	2020年 7 種	2030年 15 種	47%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

○多文化共生リーダー数についてはコロナウイルス感染症により国際交流の機会が減少したことが影響したと思われる。

○木場潟COD値、生態系回復数については大学、企業等と連携し水質改善に向けた科学的実証実験の実施や、市民ボランティアによる清掃などの結果、改善傾向にあり順調に進捗している。

○リサイクル率について指定袋導入後、家庭系ごみ量削減に一定の効果はあったが、近年は削減率下げ止まり、現行制度の課題と効果検証を行うため、
小松市環境審議会に諮問する

○2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指す宣言

【方針】
先達から受け継がれてきたふるさと小松の自然と文化を100年後の未来に引き継ぐその思いを未来に生きる子どもたちにも受け継いでいく
⇒建物の省エネ化、自然エネルギーの利活用、次世代モビリティの普及、循環型社会の形成、里山の再生等によりCO₂排出量ゼロを目指す

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1		女性全体の就業率	2015年 53.8 %		2019年 — %	2020年 — %	2020年 60 %	—
2	① 国際化時代へ、 たくましい産業を創 生	新産業創出等による新規就 労者数	2019年 0 人		2019年 107 人	2020年 238 人	2021年 300 人	79%
3		一人当たりの製造品出荷額	2016 年 3,598 万円/人		2019年 3,634 万円/人	2020年 — 万円/人	2021年 4,000 万円/人	—
4		酒米作付面積	2019 年 10 ha		2019年 10 ha	2020年 13 ha	2021年 20 ha	30%
5	② 里山ビジネスの高 度化とブランド化	6次産業の一人当たりの製 造品出荷額	2016 年 1,178 万円/人		2019年 1,203 万円/人	2020年 — 万円/人	2021年 1,500 万円/人	—
6		③ 予防先進の政策 展開で超高齢時代 に対応	いきいきシニア率	2018 年10月 68.4 %		2019年10月 69.4 %	2020年10月 70.5 %	2021年 71.5 %
7		はつらつ市民数	2019 年6月 492 人		2020年6月 985 人	2021年8月 1,314 人	2021年6月 2,000 人	55%
8	④ 主観的幸福感を 追求した質の高い地 域づくり	多文化共生リーダー数	2019 年4月 282 会員		2020年 242 会員	2020年 254 会員	2021年4月 320 会員	-74%
9		「幸せへの道しるべ」総合得 点	2016 年 393.1 点(満点600点)		2019年 — 点(満点600点)	2020年 397.7 点	2021年 420 点(満点600点)	17%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
10		木場湯COD値	2017年 8.6 mg/ℓ		2019年 7.7 mg/ℓ	2020年 — mg/ℓ	2021年 5 mg/ℓ	25%
11	⑤ 市民・団体・企業主導の環境プロジェクトを拡大	環境推進活動者数 [水辺]	2017年 6,810 人		2019年 4,414 人	2020年 2,200 人	2021年 9,000 人	-21%
12		生態系回復数	2018年 2 種		2019年 3 種	2020年 7 種	2021年 3 種	500%
13	⑥ 地球にやさしい市民意識と行動力を世界に発信	リサイクル率	2017年 21.5 %		2019年 22.6 %	2020年 23.1 %	2021年 26 %	36%
14		可燃ごみ排出量	2017年 25,927 トン		2019年 25,963 トン	2020年 25,422 トン	2021年 16,000 トン	5%
15	⑦ 多様なパートナーシップによる未来型まちづくり	多様な連携事業数	2019年8月 0 件		2019年 8 件	2020年 13 件	2021年 6 件	217%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・SDGs 宣言

市内の各事業者や団体などで、SDGs 達成のために「現在取り組んでいること」あるいは「これから取り組むこと」を宣言して掲示することで、SDGs 活動を促進することを目的として実施。今後は宣言した団体と連携しながらフードロスの取組について検討している。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

④ 国際化時代へ、たくましい産業を創生

北陸電力と小松市は、1月に複合ビル整備に関する基本協定を締結し、企業誘致フロアを設け、新産業の創出や新規就労者数、女性就業者の増加を目指す「一人当たりの製造品出荷額」については、2020年の実績は工業統計がまだ発表されていないためハイフンとした。

⑥ 地球にやさしい市民意識と行動力を世界に発信

【再掲】リサイクル率について指定袋導入後、家庭系ごみ量削減に一定の効果はあったが、近年は削減率下げ止まり、現行制度の課題と効果検証を行うため、小松市環境審議会に諮問する

⑦ 多様なパートナーシップによる未来型まちづくり

【再掲】北陸電力と小松市は、1月に複合ビル整備に関する基本協定を締結し、企業誘致フロアを設け、新産業の創出や新規就労者数、女性就業者の増加を目指す

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

（4）有識者からの取組に対する評価

・計画では、市内の里山や水郷を、SDGs研究・交流フィールドとし、環境・エネルギー問題解決、農林業の高度化等研究開発に向け住民や大学、企業等の多様なステークホルダーを交えた取組みを展開するが主目的であった。報告では、その中心となる木場潟COD値、生態系回復数は、水質改善に向けた科学的実証実験の実施、市民清掃などで改善傾向にあり順調に進捗している。今後は、さらなる具体的な事業となるように取組みを強化する必要がある。また、これ以外のKPIの達成率はまばらであり、KPIに下事業数が多すぎる可能性もあり、事業削除を含めて、選択と集中を行う必要があると史料する。

・「環境パートナーシップ」、「こまつ水郷パートナーシップ」及び「こまつ里山SDGs倶楽部」のそれぞれについて、どのような主体がどのような活動を推進しているかについて明示されることが望まれる。

・「はつらつ市民」の定義の明示が望まれる。また2020年度までの実績は目標値に比して低迷気味であるが、その理由についても明示されることが望まれる。

・「木場潟の水質改善(COD)」は、一つの指標ではあるが、湖沼の流域管理は、統合的流域管理の観点からその持続可能な保全を検討していく必要がある。こうした観点から木場潟の流域管理のあり方をこの機会に見直ししていくことが必要であると思料する。

・市民・団体・企業主導の環境プログラムの拡大とあるが、この評価資料では、企業の参画状況が明示されていない。この辺りについて補足されることを期待する。

・小松市は地元の大学との連携を重視していると承知しているが、具体的にSDGs未来都市の計画的推進に当たって大学・研究機関などの役割をどのように位置付けているのか、明示されることが望まれる。